

令和5年3月期

決算概況

のと共栄信用金庫

令和5年3月期 決算の概況

1. 損益の概要

●経常利益・最終利益共に3期連続増益

貸出金利息の減少（3.2%）に加え株式売却益等の有価証券関係収益が減少（77.9%）したことから、経常収益は3期連続の減収となったものの、与信費用の減少（19.4%）と経費の削減（1.1%）により、経常利益、最終利益は共に3期連続の増益となりました。なお、本業の利益を示すコア業務純益は4期ぶりの減益となりました。

<単位:百万円>

	令和5年3月期	令和4年3月期	増減※	増減率※
経常収益	3,886	4,072	▲185	▲4.55%
経常費用	3,546	3,781	△235	△6.22%
コア業務純益	696	722	▲25	▲3.54%
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	644	665	▲20	▲3.13%
資金利益	3,378	3,424	▲45	▲1.34%
貸出金利息収入	2,435	2,515	▲80	▲3.21%
役務取引等利益	107	115	▲7	▲6.20%
預かり資産関係収益	83	92	▲8	▲9.27%
経費	2,814	2,846	△32	△1.13%
人件費	1,651	1,651	0	△0.02%
物件費	1,055	1,083	△28	△2.59%
有価証券関係損益	▲18	23	▲41	▲176.94%
有価証券関係収益	21	95	▲74	▲77.91%
有価証券関係費用	39	72	▲32	▲45.64%
不良債権処理費用※	323	401	△78	△19.42%
一般貸倒引当金	1	28	△26	△93.89%
個別貸倒引当金	243	387	△143	△36.96%
経常利益	340	290	49	17.17%
当期純利益	203	166	37	22.27%

※不良債権処理費用は、個別貸倒引当金や貸出金償却等の個別債権に対する処理費用に、一般貸倒引当金、偶発損失引当金および償却債権取立益を加減しています。

※増減(率)欄のマイナス符号は、当該項目の減少が業績の良化要因となる場合は「△」を、悪化要因となる場合は「▲」を付しています。

2. 預貸金等の概要

●預金残高は、前期末比 57 億 600 万円（1.7%）増加し 3,343 億 9,000 万円となりました。

低金利環境の長期化を反映し普通預金等へのシフトが続き、要払性預金が 79 億 7,000 万円（5.1%）増加したのに対し、定期性預金は 22 億 6,300 万円（1.3%）減少しました。また、個人事業者預金と公金預金が増加したのに対し、個人預金と法人預金は減少しました。

<単位：百万円>

	令和 5 年 3 月期	令和 4 年 3 月期	増 減	増減率
預 金 残 高	334,390	328,684	5,706	1.73%
定期性	170,257	172,521	▲2,263	▲1.31%
要 払 性	164,133	156,163	7,970	5.10%
個 人	231,397	231,855	▲457	▲0.19%
個人事業者	23,994	23,565	428	1.81%
法 人	55,628	56,543	▲915	▲1.61%
公 金	23,370	16,720	6,650	39.77%

●貸出金残高は、前期末比 10 億 2,300 万円（0.5%）減少し 1,773 億 7,000 万円となりました。また、預貸率は 1.23 ポイント低下し 53.04%となりました。

資金の用途別では、事業性融資は増加したものの、住宅ローンを中心とした個人ローンおよび地公体向け融資が減少しました。

<単位：百万円>

	令和 5 年 3 月期	令和 4 年 3 月期	増 減	増減率
貸 出 金 残 高	177,370	178,393	▲1,023	▲0.57%
個人ローン	32,621	33,833	▲1,211	▲3.58%
事業性資金	118,621	115,984	2,637	2.27%
地公体向け	26,126	28,575	▲2,449	▲8.57%
預 貸 率	53.04%	54.27%	▲1.23 ポイント	▲2.26%
事業性先数	3,889	3,983	▲94	▲2.36%

●預かり資産残高は、前期末比 4 億 9,900 万円増加し 254 億 8,500 万円となりました。

<単位：百万円>

	令和 5 年 3 月期	令和 4 年 3 月期	増 減	増減率
預かり資産残高	25,485	24,986	499	1.99%
投資信託	7,141	7,438	▲297	▲3.99%
保 険	13,612	13,964	▲352	▲2.52%
国 債	4,732	3,584	1,148	32.03%

3. 不良債権額（信用金庫法開示債権および金融再生法開示債権）の概要

●不良債権額は、コロナ禍の長期化による経済環境の悪化を反映し、前期末比7億1,300万円増加し60億4,000万円に、不良債権比率も0.41ポイント上昇し3.32%となりました。

また、保全率は前期末比0.08ポイント上昇し79.10%となりました。

<単位：百万円>

	令和5年3月期	令和4年3月期	増減	増減率
不良債権額	6,040	5,327	713	13.38%
総与信残高	181,905	182,792	▲887	▲0.48%
不良債権比率	3.32%	2.91%	0.41ポイント	14.08%
保全額	4,778	4,210	568	13.50%
貸倒引当金	1,543	1,421	122	8.58%
担保・保証	3,234	2,788	446	16.00%
保全率	79.10%	79.02%	0.08ポイント	0.10%

4. 有価証券の評価損益の概要

●長期金利の上昇により、その他有価証券評価損が28億7,700万円増加し、37億2,600万円の評価損となりました。

<単位：百万円>

その他有価証券	令和5年3月期	令和4年3月期	増減	増減率
評価損益	▲3,726	▲715	▲3,010	420.59%
評価益	430	562	▲132	▲23.57%
評価損	4,156	1,278	2,877	225.10%

5. 自己資本比率の概要

●積立金等の自己資本は前期末比2億100万円（1.0%）増加したものの、リスクアセットが31億900万円（2.1%）増加したことにより、自己資本比率は0.15ポイントの低下となりました。

（国内基準）

<単位：百万円>

	令和5年3月期	令和4年3月期	増減	増減率
自己資本額	19,759	19,558	201	1.02%
普通出資等	19,480	19,297	183	0.95%
リスクアセット※	149,599	146,490	3,109	2.12%
自己資本比率	13.20%	13.35%	▲0.15ポイント	▲1.12%
普通出資等比率	13.02%	13.17%	▲0.15ポイント	▲1.13%

※リスクアセットとは、貸出金等の資産をリスクの大きさに応じて再評価した資産金額です。

6. 出資配当率

●昨年度と同率の2.0%としました。

	令和5年3月期	令和4年3月期	増減
出資配当率	2.0%	2.0%	0.0%

7. 令和6年3月期業績予測

●コア業務純益は2期連続減益となることが予測されるものの、与信費用の減少により経常利益、最終利益は共に4期連続の増益を見込んでいます。

<単位：百万円>

	令和6年3月期	令和5年3月期	増減	増減率
経常収益	3,887	3,886	0	0.00%
コア業務純益	656	696	▲40	▲5.85%
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	636	644	▲8	▲1.28%
経常利益	354	340	13	4.00%
当期純利益	220	203	16	8.20%

以上